

India Bi-Weekly

2012年2月15日号 (対象期間: 2012年1月30日～2012年2月10日)

英国ブルーデンシャルグループ



SENSEX指数は先々週(～2/3)と先週(～2/10)ともに上昇しました。世界的に投資家のリスク許容度が高まる中、海外投資家の買いが継続し、インド政府による2012年度経済成長率見通しの下方修正(ニュース欄をご参照ください)などの悪材料をこなして、6週連続伸となりました。SENSEX指数の2月10日までの年初来上昇率は14.8%に達しました。

SENSEX指数の推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。上記のグラフは2010年12月31日からの推移を示しています。

セクター別では、下落したのは先々週(～2/3)は2セクター、先週(～2/10)は1セクターのみで、ほとんどのセクターが上昇しました。個別銘柄では、SENSEX指数構成銘柄で先週最も上昇したのはジンダル・スチール・アンド・パワー(鉄鋼)で8.5%上昇しました。一方、最も下落したのはブハルティ・エアテル(通信サービス)で10.0%下落しました。8日発表の10-12月期決算が予想に反して減益となったことが株価を押し下げました。SENSEX構成銘柄以外では、1月30日にスターバックスとの合併会社設立を発表したタタ・グローバル・ビバレッジス(飲料)が先々週22.5%上昇しました。両社の合併については、ニュース欄をご参照ください。

【ニュース】

	インド政府、今年度の経済成長率見通しを下方修正
経済	インド中央統計局(GSO)は2月7日、2012年会計年度(2011年4月-2012年3月)の実質国内総生産(GDP)成長率予想を前年度比+6.9%と発表しました。2011年度の同+8.4%から減速する見通しです。インド政府は2012年度の実質GDP成長率を当初+9.0%と予想していましたが、2011年12月に+7.25%～+7.75%に引下げており、今回さらに下方修正しました。インド準備銀行(RBI、中央銀行)も1月24日に、2012年度の実質GDP成長率を前年度比+7.6%から同+7.0%に下方修正しています。GSOによる2012年度の実質GDP成長率予想について、ムカジー財務大臣は、企業景況感の改善、為替レートの安定、インフレの落ち着きなど最近の動きには明るさがみられ、実績は予想を上回るのではないかと見方を示しました。
	インド最大の州ウッタル・プラデシュで州議会選挙始まる
政治	インド最大の人口を擁するウッタル・プラデシュ州(人口約2億人)で2月8日、州議会選挙が始まりました。インドでは1月28日のマニプル州を皮切りに、3月上旬まで5つの州で州議会選挙が行われ、3月6日に一斉に開票される予定です。選挙が行われるウッタル・プラデシュ州は中央政界にも影響力があるとされており、選挙の行方が注目されています。
	スターバックス、タタ・グループとの合併でインド進出
社会	スターバックス・コーヒーとタタ・グローバル・ビバレッジスは1月30日、「タタ・スターバックス」という50対50の合併会社を設立すると発表しました。デリーやムンバイなどの大都市からはじめてインド全土にスターバックスの店舗を展開する予定です。インドでは単一ブランドの外資小売業者のインド企業への出資上限引上げ(51%→100%)が1月10日から実施されましたが、スターバックスはタタ・グループとの合併という進出形態を選びました。英誌エコノミストによると、スターバックスが、インド市場への単独進出は難しいと認識したためと論評しています。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社とはなんら関係がありません。

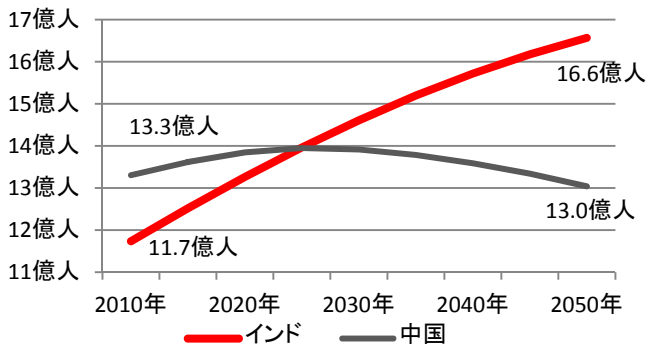
2012年2月15日号(対象期間:2012年1月30日~2012年2月10日)

【インド基礎講座】 インドの人口動態予想~「人口ボーナス」の状態が2030年ごろまで続く見込み

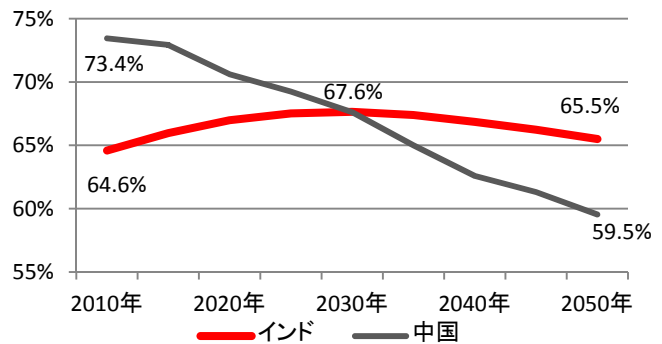
インドの人口は長期にわたって増加し、生産年齢人口(15~64歳)比率が増加する「人口ボーナス」の状態が長い期間継続する見通しです。下記のグラフは、インドと中国について、2010年から2050年まで5年ごとの人口推移予想をまとめたものです。中国とインドは2010年現在、それぞれ、13.3億人(世界人口の19.4%)、11.7億人(同17.1%)の人口を抱える人口大国です。インドの人口は今後も増え続け2020年代半ばには中国を上回ると予想されています(図1)。さらに重要なことは、インドの生産年齢人口の比率が2030年ごろまで増加し続けると予想されていることです(図2)。インドの2010年現在の生産年齢人口の比率は64.6%ですが、今後も増加し続けて2030年には67.6%に達する見込みです。その後は緩やかに減少しますが、2050年でも65.5%と2010年よりも高い水準を保つと予想されています。これに対して、中国の場合は2010年現在の73.4%から下降トレンドを辿り、2050年には59.5%まで低下すると予想されています。

《インドと中国の人口動態予想(2010年~2050年、5年ごと)》

(図1)総人口の推移



(図2)生産年齢人口の比率の推移



出所:上記のグラフはいずれも、米国防務調査局のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社について

160年以上の歴史を有する英国の金融サービスグループの一員です。

- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社は、1999年の設立以来、日本の投資家のみなさまに資産運用サービスを提供しています。
- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社は、英国、米国、アジアをはじめとした世界各国で業務を展開しています。
- 最終親会社グループは、早くからアジアの成長性に着目し、アジアでは13の国や地域で生命保険および資産運用を中心に金融サービスを提供しています。最終親会社グループの運用資産総額は、2011年6月30日現在、約3,495億ポンド(約45兆円、1ポンド=128.76円)に上ります。



アジア株式の運用拠点であるイーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)リミテッドについて

- アジア地域を幅広くカバーする資産運用会社で、インド株式に関する専門知識と豊富な経験を最大限活用した運用を行います。
- 運用を担当するファンド・マネジャーやアナリスト・チームが徹底した企業のファンダメンタルズの調査・分析を行い、その結果をもとにポートフォリオの構築を行います。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の属するグループのインドの運用会社(ICICIAM)について

- 1993年にインド大手の民間銀行ICICI銀行の資産運用会社として設立され、1998年からはイーストスプリング・インベストメンツの属するグループとの合併で事業を展開しています。ICICI銀行は、50年以上の歴史を持ち、2011年3月末における総資産は4兆623億ルピー(約7兆5,519億円、1ルピー=1.859円で換算)となっています。
- 設立以来、順調にインド国内でのシェアを拡大している、インド大手の運用会社です。(2011年6月末時点運用資産総額約7,975億ルピー(インドにおけるシェア約10.7%) 出所:インド投信協会(Association of Mutual Funds in India))

[当資料に関しご留意いただきたい事項]

当資料は、インドの株式市場と政治、経済、文化等にかかる情報提供のみを目的として、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社(当社)が株式会社T&C XTF Japanに情報提供を依頼し作成したもので、特定の金融商品等の販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。当資料は信頼できると判断される材料を使い、十分な注意を払って作成していますが、当社および株式会社T&C XTF Japanは、必ずしもその正確性、完全性をお約束するものではありません。また、掲載された企業につきましては、あくまで直近のトピックとしてご紹介させていただいたものであり、個別銘柄の売買の推奨を意図したのではなく、当社が運用を行う投資信託への組入れを示唆するものでもありません。